

社会福祉法人 東京援護協会



東援だより 第30号

理 念

私達は、高い志を持ち、時代の要請に基づき先駆的に社会福祉の充実を図るため、活力のある経営を行って、社会福祉法人としての責任を果たし、社会に貢献してまいります。



ろーたすの家 (蓮根福祉園) の自主製品
(詳細: 2 ページ)

も く じ

理事あいさつ	2
特集 東援だより30号を記念して	3
大特集 地域交流	4
下半期 法人施設公開行事日程	6
地域公益活動 「はたらくサポートとうきょう」について	7

今後の日本の人口問題とその影響

理事長 山口 桂造



昔より、よく言われた言葉に「人口が減少する国が栄えたことはない」とありますが、考えてみれば、人口が減れば活力を失うわけで、先の言葉は正にその通りだと思います。

そこで日本の人口問題を考えてみますと、少子化がハイスピードで進んでいるのが分かります。

二〇一六年の年間出生数は九七万六九七九人で、初めて百万人の大台を割りました。

戦後の出生数のピークは、一九四九年(昭和二十四年)の二六九万六六三八人なので、七十年弱にして三分の一近くまで減少したことになります。ですが、真に懸念すべきは、今後も出生率減少の流れが止まりそうになく、二一五年には三一万八千人まで落ち込むと予測されていることです。つまり、少子高齢化や人口減少の本番は、これからなのです。

では、出生率の減少はどのような影響を及ぼすのでしょうか。子供の絶対数が減少するため、今までのように各分野に人材を輩出することが出来なくなり、人材の育成や確保を困難にします。今までは、人手不足と言えば景気に大きく左右されましたが、今後は絶対的な後継者不足に陥ります。人材競争の結果、特定の分野に偏れば社会が機能しなくなることもあります。一般的に人数が多いほど人は互いに切磋琢磨し、全体のレベルも向上するものです。ですから、若い世代の絶対数が減れば、イノベーションが起こりにくくなります。また、音楽やファッション等新たな文化の発信も減少していくことも考えられます。出生数が激減する社会は、あらゆる分野において活力を失うこととなります。国は近年働き方改革や学費の無料化等子供の育成に力を入れ始めましたが、もっと早くに手を付けるべきでした。AIやITによる機械化、元気な高齢者の再雇用促進、外国人介護職の導入、定年延長、職場環境の改善、給与等の優遇措置等に、官民一体となって取り組み、この人手不足という難局を乗り越えていかなければなりません。

理事 あいさつ



ご挨拶

東京援護協会 理事 生沼正篤

東京援護協会の皆様はじめまして。
私は、本年四月に理事を拝命しました、生沼正篤まきひろです。

前職の台東区では、山口桂造理事長には区監査委員をはじめ、様々な行政委員をお願いし、地域の見識者として大変なお力をいただいております。

また、東京援護協会には、特別養護老人ホーム蔵前、ケアハウス松が谷を運営していただき大変にお世話になっております。指定管理者の更新にあたっては、両施設とも高い評価を受け、区としても安心して運営をお任せしております。

私は、企業や団体の繁栄は、そのトップの人柄や人格で決まると思っております。

ます。何度か援護協会の理事会に出席し、理事長、副理事長の社会福祉への思い、社会貢献への熱意、職員への思いやりに触れる一方で、職員の皆様もその思いに一生懸命応えようとする姿をみて、東京援護協会の未来は明るい確信しました。

私も理事の職務に精一杯務め、少しでも東京援護協会の発展のお役に立てるように努力して参ります。

私の好きな歌に、ル・クプルのひだまりの詩うたがあります。どうぞ皆様方の施設が、利用者にとって、暖かい陽だまりとなるように一層のご活躍を期待いたします。

ろーたすの家
(蓮根福祉園)の自主製品の紹介

ろーたすの家では、みなさんを笑顔にする製品を心をこめて作っています。縫製品では、ナンキンハゼの落ち葉をイメージしたバリエーションに富んだコースターが人気です。保育園グッズ(バッグ等)の注文も承っています。製菓製品では、ろーたすサンド(レーズンバターサンド)、チーズケーキ、ろーたすぷりりん(クリームブリュレ)、おから入りクッキー、野菜クッキー等を販売しています。

新製品のろーたすサンド(レーズンバターサンド)、チーズケーキのブルーベリー味は、お客様から美味しいと評価をいただいています。また野菜クッキーは、乳製品・卵・砂糖を使わず、国産野菜パウダー・国産小麦粉・てんさい糖から作っています。ろーたすの家一同、ご注文をお待ちしております。



東援だより 30号を記念して

町田荘紹介

生活支援係長 佐野 充昭



16年後の風景（町田市薬師池公園）



「東援だより第1号」表紙

前回、町田荘の施設紹介が東援だより第1号に掲載されてから早いもので16年が経過しました。16年前の平成13年（2001年）は、USJの開園、第一次小泉内閣の発足、9・11アメリカ同時多発テロ事件などの大きな出来事がありました。

さて、当時の町田荘は重度身体障害者授産施設で日中は授産作業を主とし、利用していた方の多くは身体介助を要しませんでした。

その後、制度は措置から契約へと変わり、施設は平成23年の事業移行（障害者自立支援法体系）と同時に建物を増改築し、ベッドと個室を増やして、より支援・介護が必要な方を対象にするようになりました。また、日中は作業の他レクリエーションなども取り入れて、生活を総合的に支援する障害者支援施設へと変わっています。

障害者施策では、重度・高齢化問題、65歳問題等々の問題もあり、変化の多い福祉制度のなかではありますが、創立50余年の歴史と日本初の車椅子対応リフト車の発祥の施設として後世に語り継いでいきたいものです。

30号を記念して

いずみの苑 介護職員 城野 卓也



「東援だより第10号」表紙

ひかり教室の共同作品

10年前に発行された東援だより第10号には、いずみの苑のデイサービスに通う利用者様が作った作品の写真が掲載されていました。

10年経って、デイサービスに通われている利用者様の顔ぶれも変わりましたが、意欲を持って作品作りに勤しむ様子は今も変わっていません。

写真はひかり教室の利用者様方が協力しあって作った共同作品です。

作品が完成して利用者様が喜んでいる姿を見るのは職員の楽しみにもなっています。



HIBDY.Tokyoでの作業活動

作業療法士 安藤 健太



「東援だより第20号」表紙

東京高次脳機能障害者支援ホームでは、平成23年4月から東京都心身障害者福祉センターからの機能移行により、自立訓練事業が開始されました。

作業療法のリハビリで、切り絵や塗り絵などを利用者様が作製しています。

現在は、以前から行っているものに加え、革細工や籐細工の作製にも取り組み、自主作品の幅が広がってきています。中には工程が複雑なものもあり、作業に苦戦される場面もありますが、最後まで完成させると達成感を得られ、次はもっと良いものを作ろうと、何度も挑戦される方もいらっしゃいます。今後も様々な作業を取り入れていきたいと考えております。





関町福祉園

納涼会

生活支援員 垣添 好美

7月15日(土)に毎年恒例の納涼会を開催しました。今年は例年にも増して気温が高く、夏らしい天気の中での催しとなりました。

当園の特徴として、広い園庭と多目的ホールがあります。園庭にはテントを張り、園内と合わせて計8団体が模擬店を出店してくださいました。その他にも父母の会がフランクフルトやジュース等を販売し、利用者様も厨房で揚げたからあげや自主製品販売に参加し、どの団体も大盛況でした。

一方、ホールにはステージを設け、5団体が出演してくださいました。近隣の児童館の子どもたちのダンスや、中学校のウインドアンサンブル部の演奏等を披露してくださいさり、皆さんとても楽しまれていました。

納涼会を締めくくるのは園庭で行う花火です。中でも「ナイアガラ」と呼ばれる花火は綺麗で勢いも良く、地域の方々からも大歓声があがりました。

今年の納涼会は利用者様、ご家族、職員等を含め、700名以上の参加があり、大盛り上がりの行事となりました。



蓮根高齢者在宅サービスセンター

地域交流を通しての施設の役割

係長 和田 政宗

蓮根高齢者在宅サービスセンターでは近隣の保育園、小学校と毎年5回程度の交流会を行っています。私自身この仕事について20年が過ぎましたが、交流会を行う度に、子供達が利用者の方達から引き出す満面の笑顔、感動の涙にはとてもかなわないことを実感します。

世代を超えた人間同士がふれあい、お互いを尊重し、あなたに会えてよかったと思わせてくれる機会が地域との交流だと思います。

交流会をきっかけに街であいさつをしてくれたり、センターに遊びに来てくれる子供達も出てきました。



また、当センターではこども110番も行っています。現代は複雑な事情を抱える子供達も増えていると聞きます。

気軽に声を掛けられる、些細なことでも相談出来る交流会を通し、そんな役割を果たせる信頼ある素敵な場所になれることを、これからも目指して行きます。

東が丘障害福祉施設・東が丘荘合同

あじさいまつり

生活指導員 宇鉄 昭子

6月3日(土)に、東が丘荘障害福祉施設、東が丘荘の合同主催で、恒例の「あじさいまつり」が行われました。お天気にも恵まれ、多くの来場者があり、いつもは静かな施設内が飾りつけも相まって華やかな一日となりました。

メインステージでは、利用者様の出し物のほかに、本格的な大道芸のパフォーマンスがあり、会場が大いに沸きました。参加された方は、イメージキャラクターを主人公にしたスタンプラリーに参加したり、あじさいホームの喫茶でくつろいだり、個性あふれるお菓子やパン、さき織、アクセサリーなどを販売する出店を見てまわったりして楽しんでいただけたようです。何と言っても今年一番うれしかったことは、町内



会の皆さんがかき氷のお店を出店してくださったこと！氷はふんわりと軽い口当たりがなんとも言えずおいしく、あっという間に売り切れてしまいました。

また来年も様々な工夫を凝らして、みなさんに楽しんでいただけるおまつりを開催していきたいと思っています。



町田荘・サルビア荘合同

納涼祭

生活支援員 宮村 千恵

7月22日(土)に恒例の町田荘・サルビア荘合同納涼祭が開催されました。当日は天候にも恵まれ、かき氷・たこ焼き等の模擬店も盛況でした。アトラクションでは、ボランティアの方々によるエイサー・フラダンス、明星大学吹奏楽部の迫力ある演奏会があり、利用者の皆様、地域の方々とても楽しむことが出来ました。盆踊りでは、多くの利用者様が参加され、夏を感じるひと時を過ごされていました。

今年は自主生産品の販売もおこなわれました。プリントTシャツ・陶芸品、缶バッジなど様々な作品がお店に並び、利用者様自らが「いらっしゃいませ」と声を上げ、来荘された方々は興味津々で手に取り、購入されていました。

納涼祭の締めは「花火の時間」で、地域の子どもたちと利用者の皆様と一緒に楽しんでいました。

来年も、町田荘・サルビア荘と地域の方々が交流を深めることが出来る企画を考えていきたいと思ひます。



平成28年度 東京援護協会の財政状況

事業活動収支の概要

(自平成28年4月1日 至平成29年3月31日) (単位:千円)

内 訳	収 入	支 出	収支差額
事業活動による収支	5,346,156	5,078,301	267,855
施設整備等による収支	2,322	40,807	△ 38,485
その他の活動による収支	52,641	170,572	△ 117,930
当期資金収支差額合計	5,401,119	5,289,680	111,439
前期末支払資金残高			1,391,052
当期末支払資金残高			1,502,491

貸借対照表

(平成29年3月31日現在) (単位:千円)

資産の部合計		負債の部	
流動資産	1,771,905	流動負債	401,748
		固定負債	393,520
		負債の部合計	795,268
固定資産	2,029,371	純資産の部	
		基本金	77,805
		国庫補助金等特別積立金	471,325
		その他の積立金	769,588
		次期繰越活動増減差額	1,687,288
純資産の部合計	3,006,008		
資産の部合計	3,801,277	負債及び純資産の部合計	3,801,277

平成29年度 下半期 法人施設公開行事日程 及び 地域交流行事一覧

施設名	行事名	月 日	時間帯	内 容
大泉障害者支援ホーム	ふれEYEまつり	9月30日(土)	10:00~15:30	毎年恒例のホーム祭。コンサート・体験コーナー・施設紹介・模擬店・アトラクションなど実施。
板橋区立蓮根福祉園	れんこんまつり	10月7日(土)	10:30~15:00	地域の方に園への理解を深めていただく地域交流行事。各施設の自主生産品、被災地物品販売、模擬店、イベント等。
東京高次脳機能障害者支援ホーム(ヒブディ。トウキョウ)	ふれあい秋まつり	10月28日(土)	10:30~14:30	地域交流・地域公開行事。自主生産品販売、模擬店、ゲームコーナー等。 練馬ねりあるきラリー(スタンプラリー)
特別養護老人ホームいずみの苑・蓮根高齢者在宅サービスセンター合同	第10回いずみ祭	10月29日(日)	10:00~15:00	模擬店、音楽ボランティアによる演奏、落語やスコープ三味線などのイベントを開催。
町田荘・サルビア荘合同	~丘の上の施設から~ 障害者施設の暮らしと 高齢者施設の暮らし	10月22日(日)~ 11月5日(日)	9:00~17:00	里山交流館(町田市小野路町888-1)の土蔵展示ギャラリーを借用し施設の紹介及び利用者作品展示と相談コーナーを設置し地域の方に施設を知っていただく機会とする。
板橋区立前野福祉園	ニコニコフェスタ 2017	11月11日(土)	10:00~15:00	地域の方に施設事業を公開する地域交流行事。アトラクション、クラブ発表、模擬店、自主生産品販売等。
板橋区立三園福祉園	施設公開 [みその祭り]	11月15日(水)~ 17日(金)	10:30~11:30 13:30~14:30	福祉園で行っている、日中活動(作業・レクリエーションなど)を利用者の方と一緒に体験していただいたり、イベントを楽しんでいただく。
大泉障害者支援ホーム	就労支援講演会	11月16日(水)	10:00~12:00	地域公開講座「親なきあと」と題して講演予定。
田柄福祉園	施設公開行事	11月18日(土)	10:30~11:30 13:30~14:30	地域の方々、ご家族、関係機関等を対象に、実際の活動や写真・映像等を公開し、施設を理解していただく機会とする。
練馬区立関町福祉園	施設公開 [関町フェスティバル]	11月18日(土)	10:30~14:30	地域の方々やご家族を対象に行う施設公開行事。活動紹介、作業紹介、模擬店、自主製品販売等。
板橋区立障がい者福祉センター・ 板橋区立高島平福祉園	虹の祭典	11月25日(土)	10:00~14:45	地域交流行事としての催し物、作品展示、事業紹介、自主生産品販売、模擬店コーナー等。
板橋区立小豆沢福祉園	施設公開 [あきのあずさわ大公開]	11月25日(土)	10:30~14:30	地域交流行事、体験を含む活動紹介、模擬店、イベント等。
東が丘福祉工房	年忘れ会	12月15日(金)	10:00~14:00	クリスマス会を兼ねての地域交流行事。
大泉障害者支援ホーム	ガイドヘルプ 入門講座	平成30年 1月か2月予定	未定	視覚障害者のガイドヘルプの入門編。講師を招き、実技を中心に実施する。
板橋区立三園福祉園	地域開放	平成30年 2月17日(土)	10:00~15:30	映画上映などのイベントを実施し、地域の方との交流を行う。
東が丘福祉工房	さくらまつり	平成30年 3月23日(金)	10:00~12:00	地域の方やボランティアの協力を得て、開催する地域交流行事。抹茶の振る舞いや自主生産品出店、音楽活動開催。

地域公益活動「はたらくサポートとうきょう」について

「はたらくサポートとうきょう」とは、「はたらくたいけれど、はたらくにくいすべての人に対して、その人に合わせたはたらく方を考え、はたらく場を提供し、支え、ともにはたらくことをめざす」という理念の下、各事業所が「はたらく場」を提供し、相談支援機関等と共に支援する取り組みです。これは、就労継続支援B型事業等の「福祉的就労」と、雇用契約に基づく一般労働市場における自立的な労働である「一般就労」の間に位置する「中間的就労」という就労形態の提供であり、東京都地域公益活動推進協議会の広域連携事業です。当法人は、平成28年度から法人各施設がこの事業に登録しており、各施設で現在の仕事を見直し、「はたらく人」の仕事の切り出しを行い、受け入れの体制を整えております。

これからも当法人は、社会福祉法人だからこそできることや社会福祉法人に求められているニーズに対応してまいります。



『ボッチャ交流会』に参加しました

参加しました

前野福祉園 主任生活支援員 中澤 幸治

平成29年8月3日に東板橋区体育館で開催された「第5回板橋区ボッチャ交流会」に参加しました。今回の交流会は区内9つの福祉園等の福祉団体の他、区内の小学生もボランティアとして参加しました。前野福祉園は6名の利用者様が参加、小学生1名と計7名のチームでリーグ戦に挑みました。当園では昨年度用具を購入し、月1回スポーツの時間において練習してきました。その成果もあって、リーグ戦のブロックでは2勝1引き分けでトップになりました。

ボッチャはリオのパラリンピックで注目され、板橋区でも、東京パラリンピックに向けて盛り上げて行こうとしています。ボッチャの魅力は力（パワー）が競技の優劣に関係ないことで、幅広い方が楽しめるスポーツです。

今後もこのような機会がありましたら参加して、多くの方々と楽しみながら交流をしていきたいと思えます。



的である白い球に自チームの球をより近づけるように投げます。



開会式で対戦チームが発表されました。





法人の徽章

○徽章の理念は『平等』を現しています。
 ○上半分は『太陽』を、下半分は『海』を意味しています。
 『太陽』は生きる者全てに、わけ隔てなく光を与え育みます。そして人への愛、温もり、笑顔などのイメージが広がります。『海』は、地球上のあらゆる生物を産み、暖かく育ててくれた場です。
 ○『太陽』と『海』の存在が、平等を実現しています。

社会福祉法人東京援護協会施設一覧

法人本部

〒101-0044
 千代田区鍛冶町 1-8-5 新神田ビル2階
 TEL : 03-3256-4711

施設(事業)名	住所
町田 荘 施設入所支援事業 生活介護事業 短期入所事業(空床利用型)	〒194-0203 町田市図師町 2987 TEL : 042-791-0905
サルビア荘 特別養護老人ホーム 短期入所生活介護事業 指定居宅介護支援事業 通所介護事業	〒194-0203 町田市図師町 2987 TEL : 042-794-0333
東京高次脳機能障害者支援ホーム(ヒブディ・トウキョウ) 施設入所支援事業 生活介護事業 自立訓練(機能訓練)事業 短期入所事業(空床利用型)	〒178-0065 練馬区西大泉 5-36-2 TEL : 03-3925-0088
練馬区立心身障害者福祉センター 練馬区中途障害者通所事業 自立訓練(機能訓練) 自立訓練(生活訓練) 地域活動支援センター	〒176-0021 練馬区貫井 1-9-1 TEL : 03-3926-7214
高島平福祉園 生活介護事業 就労継続支援B型事業	〒175-0082 板橋区高島平 9-25-12 TEL : 03-3550-3403 (分場) 〒175-0082 板橋区高島平 9-1-8-201 TEL : 03-5399-7170
板橋区立障がい者福祉センター 地域活動支援センター 指定相談支援事業 基幹相談支援センター事業	〒175-0082 板橋区高島平 1-25-12 TEL : 03-3550-3401
蓮根福祉園 就労継続支援B型事業	〒174-0043 板橋区坂下 2-8-1-101 TEL : 03-5392-0761
前野福祉園 就労継続支援B型事業	〒174-0063
前野高齢者在宅サービスセンター 通所介護事業 指定居宅介護支援事業	板橋区前野町 4-16-1 TEL : 03-5392-8731
特別養護老人ホームいずみの苑 短期入所生活介護事業 通所介護事業 指定居宅介護支援事業 訪問介護事業 地域包括支援センター	〒174-0042 板橋区東坂下 2-2-22 TEL : 03-5970-9101
蓮根高齢者在宅サービスセンター 通所介護事業	〒174-0046 板橋区蓮根 2-28-2 TEL : 03-5994-1111

施設(事業)名	住所
小豆沢福祉園 生活介護事業	〒174-0042 板橋区東坂下 1-4-9 TEL : 03-3969-5131
ケアハウス松が谷 軽費老人ホーム 通所介護事業 指定居宅介護支援事業 地域包括支援センター	〒111-0036 台東区松が谷 4-4-3 TEL : 03-3845-6501
特別養護老人ホーム蔵前 通所介護事業 指定居宅介護支援事業 地域包括支援センター	〒111-0051 台東区蔵前 2-11-7 TEL : 03-3862-3033 〒111-0051 台東区蔵前 2-11-3
自立支援センター豊島寮 自立支援事業 地域生活継続支援事業 地域生活移行支援事業 巡回相談事業 ホームレス生活サポート事業	豊島区内
大泉障害者支援ホーム 施設入所支援事業 生活介護事業 短期入所事業 就労移行支援事業 就労継続支援B型事業	〒178-0061 練馬区大泉学園町 9-4-2 TEL : 03-3978-5581
東が丘荘 更生施設 通所・訪問事業 ステップハウス事業 宿泊所	目黒区内
目黒区東が丘障害福祉施設 目黒区立東が丘福祉工房 生活介護事業 目黒区立東が丘あじさいホーム 短期入所事業 福祉ホーム	〒152-0021 目黒区東が丘 1-21-15 工房 TEL : 03-3410-0778 ホーム TEL : 03-3410-6030
練馬区立関町福祉園 生活介護事業	〒177-0053 練馬区関町南 3-15-35 TEL : 03-3594-0217
三園福祉園 生活介護事業 重症心身障害児(者)通所事業	〒175-0091 板橋区三園 2-9-16 TEL : 03-5383-9587
田柄福祉園 生活介護事業	〒179-0073 練馬区田柄 3-14-9 TEL : 03-3577-2201

発行日 平成二十九年十一月三十日
 発行者 山口 桂造
 社会福祉法人 東京援護協会
 東京都千代田区鍛冶町一八一五
 新神田ビル2階
 電話 〇三三二五六一四七一

編集後記
 今号の第30号記念特集を読み、年月が経つのは早いなあと思っていたら、今年一年も瞬く間に過ぎ、記事にもある秋の施設公開行事や地域交流イベントも各施設で盛大に行われ、あっという間に今年最後の月となってしまいました。
 少し早いですが、来年も利用者の皆様やそのご家族、地域の皆様等に支えられ、職員一同社会福祉の増進に努めてまいりますので、何卒よろしくお願ひ申し上げます。



この施設この一枚

撮影：大泉障害者支援ホーム



当ホームの正門横の街路樹に、大変珍しい緑色の桜があります。ソメイヨシノが散った後4月中旬～下旬頃に咲く八重桜で【御衣黄桜ぎょいこうざくら】と言うそうです。
 開花したばかりの花は、初々しい薄い緑色、徐々に黄色に変化しやがて花びらの中心部が赤く染まっていくのが特徴です。万葉の時代から、散りぎわまで美しい事から自分自身の人生と重ね合わせてきた花だそうです。一度見にいまして下さい。